

長崎大学 環境科学部



環境を学び
未来を創成する
人材をつくる

Faculty of Environmental Science
NAGASAKI UNIVERSITY



ENVIRONMENTAL SPECIALIST

環境スペシャリストを輩出する教育

環境科学部では、社会学・行政学・経済学・工学・理学・農学といった多岐にわたる学問分野を、自然環境を理解し環境問題を解決するという一つの目的のもとに学びます。例えば、環境社会学では、人と自然、人とのかかわりという観点から、社会的なしくみや制度がどうあるべきかについて学びます。また、環境フィールド演習Iでは、上下水道・廃棄物などについて学び、それぞれの現場も訪ねます。環境科学部では、このような環境に関する学問分野を集約し、高度に理解し、修得した知識・技術を実践の場へ応用できる人材を育成し、社会に輩出し続けています。

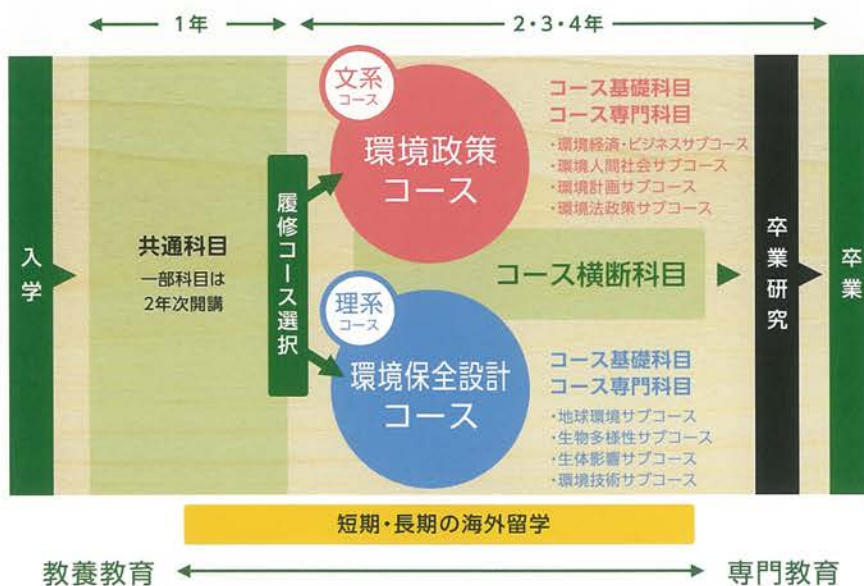
POINT

環境科学を学んだ人材の必要性は、あらゆる業種に存在します。地方自治体や民間企業が環境(に配慮した)活動を展開していくためには、組織の中に環境のことを俯瞰的にとらえることができる人材がいなければなりません。当学部ではそのような人材輩出を目標としています。



COURSE

環境科学部の教育コースには「環境政策コース(文系コース)」および「環境保全設計コース(理系コース)」の2つがあります。早期卒業制度により、成績優秀な学生は3年で卒業できます。



講義科目の紹介

環境政策学I 環境政策コース / 2年次

環境問題を抑止、解決するための政策について学び、公共政策がどのように行われるかを行政と経済の2つの視点から考えます。この授業では、通常の講義に加えて、複数のグループに分かれ、特定の環境問題とケーススタディーを取り上げて、グループで議論します。このように学生が主体的に授業を進めていくところが環境政策学Iの魅力です。

分析化学 環境保全設計コース / 2年次

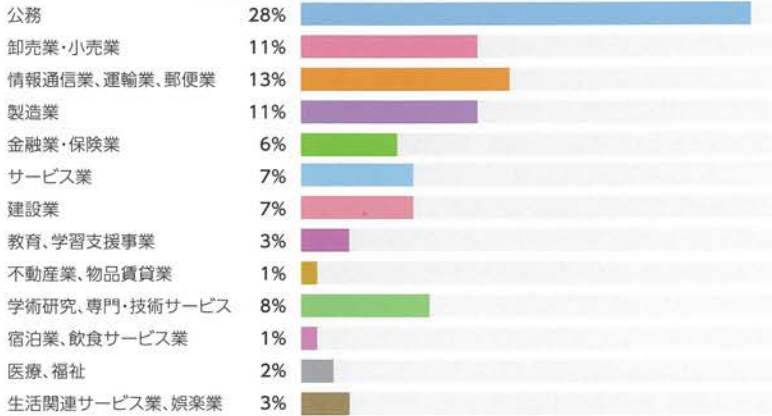
河川水や大気などの環境中の化学物質を捕集・前処理・分析する手法、機器の種類や仕組み、関連する法規制などについて学びます。化学分析に関する理論だけでなく、採取・調査時の注意点や試料の保存法など現場感覚も体得することができます。

CAREER OPTIONS

卒業後の進路

面接指導やエントリーシート添削などの手厚い就職支援で、高い進路内定率(令和2年度は92.8%)を誇ります。環境関係の企業はもちろん、公務員の比率が高いのも特徴です。

就職状況 令和2年度卒



※環境科学部では、所定の授業科目の単位を修得すれば、社会調査士、環境再生医(初級)、自然再生士補、高等学校教諭一種免許状(理科)を取得できます。

就職・進学先の一例 過去5年度

- 環境系
 - 九州電力(株)
 - 西部ガス(株)
 - 住友金属鉱山(株)
 - (株)長府製作所
 - 日鉄環境プラントソリューションズ(株)
 - 協和電機工業(株)
 - (株)大島造船所
 - メタウォーター(株)
 - (株)クリタス
 - (株)建設技術研究所
 - 西日本鉄道(株)
 - 扇精光コンサルタンツ(株)
 - (株)日本ベネックス
 - 霧島ホールディングス(株) など
- 公務員
 - 長崎県庁
 - 佐賀県庁
 - 宮崎県庁
 - 大分県庁
 - 鹿児島県庁
 - 熊本県庁
 - 東京都庁
 - 林野庁
 - 財務省・税関
 - 長崎市役所
 - 福岡市役所
 - 北九州市役所 など
- 大学院進学
 - 長崎大学大学院
 - 東京大学大学院
 - 京都大学大学院
 - 九州大学大学院
 - 東京工業大学大学院
 - サセックス大学大学院
 - 北海道大学大学院 など
- その他
 - 大成建設(株)
 - (株)商船三井
 - (株)時事通信社
 - 積水ハウス(株)
 - 大塚製薬(株) など

卒業生と在学生の声

01 長浦 善之

株式会社ハイドロ総合技術研究所
環境グループ
環境保全設計コース 平成25年度卒
(博士前期課程 平成27年度修了)



私が現在勤めている株式会社ハイドロ総合技術研究所では、国内外の社会インフラ、防災、環境分野における数値解析やシステム構築等を行っています。例えば河川の氾濫解析結果などはハザードマップとして市町村で公開されたりするので、この仕事は皆さんの生活を支える重要な役割を担っています。仕事を進める際には多種多様なデータを取り扱うことが多く、専門分野はもちろんですが幅広い知識と考え方が

必要となります。環境科学部では、文理融合型の学部の特性上様々な分野について学ぶことができたので、仕事を行う際には学生の頃の経験が活きていると日々実感しております。環境科学部での経験は有意義なものであり、社会の中で十分に力を発揮できるのではないかと思います。是非たくさんの方を学んで、自分の目標や夢に向かって、充実した大学生活を送ってください。

02 友永 さや香

長崎市 秘書広報部 秘書課
環境政策コース 平成25年度卒



私が環境科学部に入学したのは、高校時代、授業の一環で本学部の理系の教授が「長崎市のまちづくり」について講義してくださり、その内容に興味を持ったからです。私自身、根っからの文系で、まちづくりについても法律の視点から研究しましたが、本学部の文理融合という理念のおかげで、文系の私でも理系の講義を受講でき、多角的な視点を養うことができたと思います。現在は、長崎市役所の秘書課という部署で働いています。様々な部署がある

市役所の中で、専門的な業務を行う部署ではなく、多角的な視点を持ち、幅広い分野を総合的に把握して長崎のまちづくりをサポートすることが求められる部署です。本学部で学んだことを活かせる場面が多いと実感しています。本学部では、「環境」という大きなテーマの中から、自分の興味のある分野をとことん学ぶ場があります。環境科学部で、視野を広げて多くの選択肢の中から自分の進みたい道を見つけてみませんか。

03 田頭 弘喜

4年生
環境政策コース
福岡県出身



環境科学部で学べることは、多岐にわたります。私は高校まで理系でしたが、2年次に文系の環境政策コースに進みました。環境政策コースでは、生態系や自然環境、人間の住環境である都市計画、法律や制度、そして、経済学・ビジネスのような多様な分野から環境問題を理解し、解決するためのアプローチを学びました。地球環境問題から身近な生活環境問題までこのような専門知識を身につけられることは、この学部の

魅力だと思います。また、環境に関わる様々な分野のプロフェッショナルの先生からのサポートを受けられることは、この学部で学ぶ強いところだと思います。大学というモラトリアム期間に環境について学ぶことは、専門知識と共に、自然環境や人間社会の在り方について考える力を培ってくれます。ここで学んだものは、環境分野はもちろん、幅広い分野で将来について模索する際に役立つと思います。

04 倉本 菜摘

博士前期課程2年
水産・環境科学総合研究科 環境科学領域
鹿児島県出身



私は環境科学部の魅力は2つあると思います。1つは、文理融合学部であることです。2年次に以降に政策コースと保全設計コースのどちらかを選択しますが、他コースの専門科目も受講することができます。そのため、文系と理系の両方の側面を合わせ持つ環境分野を学ぶ場としてとても充実しており、高校で選択した文系理系のくりにとらわれることなく自分の進路を考え直す機会にもなります。

もう1つは環境分野を学べる海外研修のプログラムが豊富なことです。私は学部1年次にタイ、3年次にはスウェーデンに行きました。語学研修とは異なり、現地の学生とフィールド調査を行ったり、自分の研究を進めたりすることができます。海外で同じ分野を学んでいる仲間との出会いから大きな刺激を受けることができ、良い経験となりました。皆さんも、様々な分野や人と出会うチャンスがあるこの学部で環境について学んでみませんか。

環境科学部の入試・カリキュラムの特徴

環境科学部の入試には、文系科目が有利な配点のA受験と理系科目が有利な配点のB受験があります。それぞれの受験生が得意な方で、または共通テスト後にどちらで受験するかを選べます。これは本学部が環境問題に対処するには文理からの多角的アプローチが必要と考えているためであり、入学後の1年生は文理が区別されておらず両分野を学ぶことにつながっています。学生は2年次に進級する際にどちらかのコースを選択し、以降それぞれの専門を深めることとなります。このコース選択は受験時の選択とは無関係です。すなわち、大学でもう一度自分の進路をじっくり選択することができる点も本学部のカリキュラムの特徴です。

文系受験・理系受験を
選べます

2年次進級の際に
教育コース(文・理)の選択が
可能です

RESEARCH AND STUDENT LIFE



研究と学生生活

卒業研究の紹介

環境社会学・地域社会学

黒田 暁 准教授

環境破壊や自然災害から引き起こされる問題は、自然と人間の関係がこじれたときのみ起こるわけではありません。身近な自然がどうあるべきか、災害によって大きなダメージを受けた地域が今後どう再生されていくべきか。当研究室では、幅広い意味での「環境」と、人々の営みの関係のこれらについて、現場で行動しながら考え、その実態に迫ろうとします。社会学のフィールドワーク(現地調査)という研究方法によって、現場に潜む問題を自ら見つけ出し、解明する力を身につけていきます。



保全生態学

井口 恵一朗 教授

長崎大学のそばを流れる浦上川では、治水・利水のため、方々で河川改修が行われています。清流のイメージとはほど遠く、都市型河川の典型と言えるかもしれません。しかし、ここで調査を行うと、水の汚れに敏感なアユやタカハヤの生息を確認することができます。他にも、ウナギやナマズなど、希少性の高い魚種の営みも観察されます。当研究室では、「生物多様性」の意義を考え、それを保全していく術について研究を行っています。



留学・海外研修

主に1~3年生を対象として、2月下旬~3月中旬の春季休業期間に、台湾の淡江大学やタイのマヒドン大学などにおいて、国際環境研修を行っています。現地の大学生と一緒に英語による座学、フィールド演習、環境施設見学などの共修を通じ、各地域で特徴的な環境問題について学びます。また、3年生~大学院生を対象とした短期研修として、スウェーデンのルンド大学、イギリスのランカスター大学、アメリカのハムリン大学、インドネシアのインドネシア大学などに派遣を行っています。

(写真はマヒドン大学(上)とランカスター大学(下)での研修風景)



サークル活動



エコマジック

主に長大祭(学園祭)が活躍の場です。店舗に食器を貸し出し、洗浄・再貸し出しをすることで、使い捨て容器のゴミを減らす活動をしています。また、ゴミの分別指導や生ゴミの堆肥化も行っています。



ビオトープパレット

長崎大学内のビオトープの管理や自然体験を通じて、多様な生態系の保全と観察を行っています。

くわしくは環境科学部のホームページで

<http://www.env.nagasaki-u.ac.jp/>

